

にんじんとごぼうとだいこん (岡山県)

むかし。めつたにおふろをわかさなかつたころのおはなしです。

あるとき、おばあさんが、おふろをわかしました。すると、畑でだれかが、があがあ、があ、うるさくしゃべっているのが聞こえました。おばあさんが聞いていると、だいこんとにんじんとごぼうが、

「おばあさんが、おふろをわかしたぞ」

「わしらはめつたにおふろになんかに入れないから、入れてもらおうじゃないか」

「そうだ、そうだ、入れてもらおう」といっていました。

だいこんとにんじんとごぼうは、おばあさんのうちに来て、

「おばあさん、おばあさん。あとでいいから、お風呂に入れてください」とたのみました。

おばあさんは、

「はいはい。なんぼでも入りなさい。せつかくわかしたんだから」といいました。三人は、喜んで入れてもらうことにしました。

にんじんとごぼうが、

「だいこんさん、先に入ってくれ」というと、だいこんは、

「いんや。わしは時間がかかるから、あんたたちが先に入ってくれ」といいました。にんじんとごぼうは、

「でもなあ。熱いかもしれんし、ぬるいかもしれんしなあ」といいました。だいこんは、

「熱くてもぬるくても、もんくをいつてはいけないよ。もらい湯なんだから」といいました。

すると、にんじんが、

「それなら、ごぼうさん、先に入ってくれ」といいました。

「いんや。にんじんさんが先に入ってくれ」と、ごぼうがいったので、にんじんが最初に入りました。

お湯はたいそう熱かったのですが、にんじんは、

「おふろつて、こんなもんだ」と思って、熱いのをじっとこらえて入っていました。それで、お湯から上がって来たときには、からだがまっかになっていました。

「こんどはごぼうさんが入れ」と、にんじんがいうと、ごぼうは、

「うんにや、だいこんさん、先に入ってくれ」といいました。

「いんや、わしは時間がかかるから、あんたが先に入れ」と、だいこんがいったので、しかたなく、ごぼうが入りました。

お湯は、熱くて熱くてたまりません。ごぼうは、

「こんなに熱くては、ゆっくりつかっていられない」といって、すぐにおふろから飛び出しました。それで、からだはまっくろなままでした。

最後にだいこんが入りました。ふたりが入ったあとなので、お湯は、熱くもぬるくもなく、ちようどいいかげんになっていました。それで、ゆっくりゆっくりつかって、きれいにきれいに洗いました。だいこんは、からだがまっしろになりましたとき。

おしまい